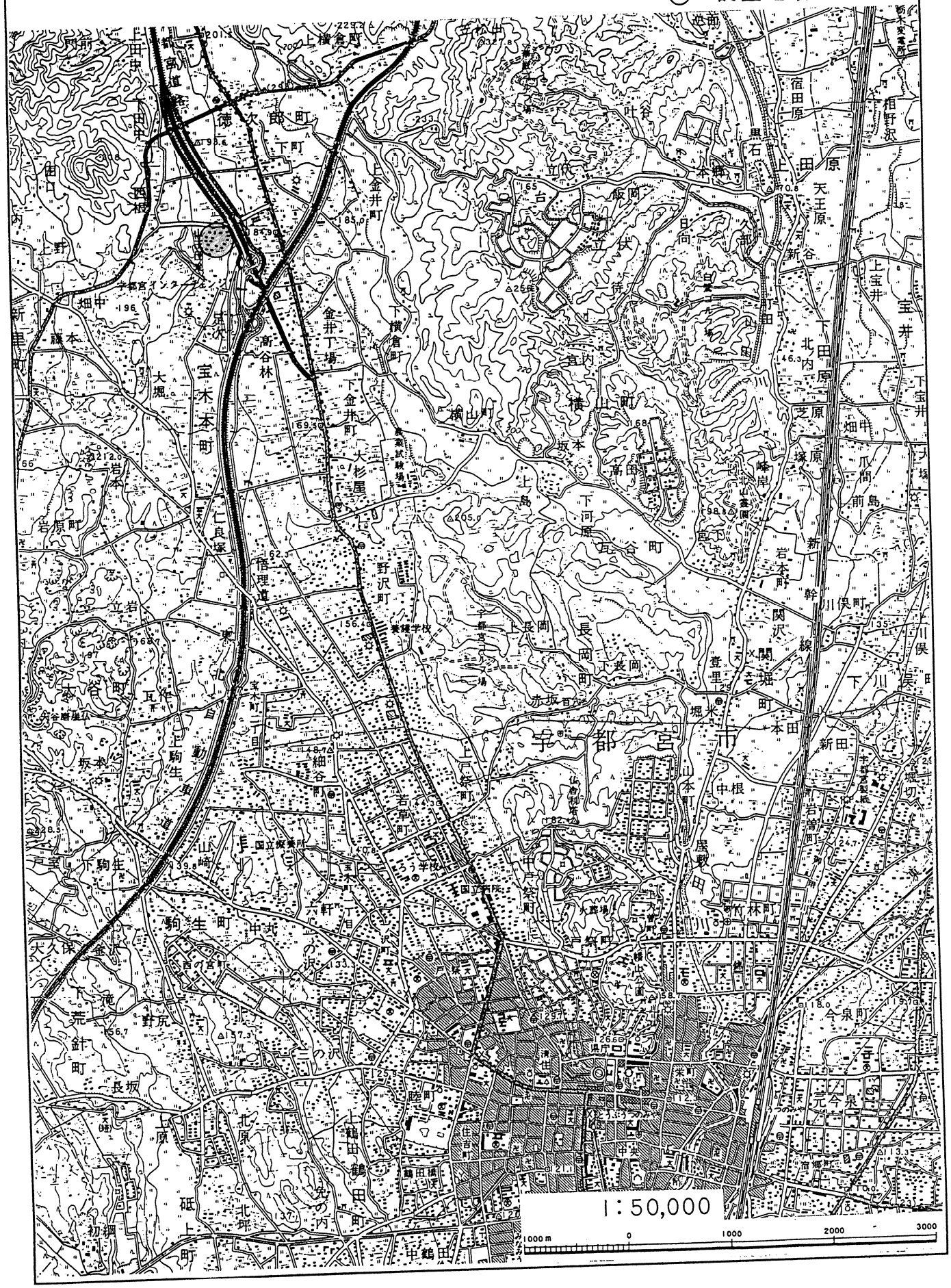
案内図

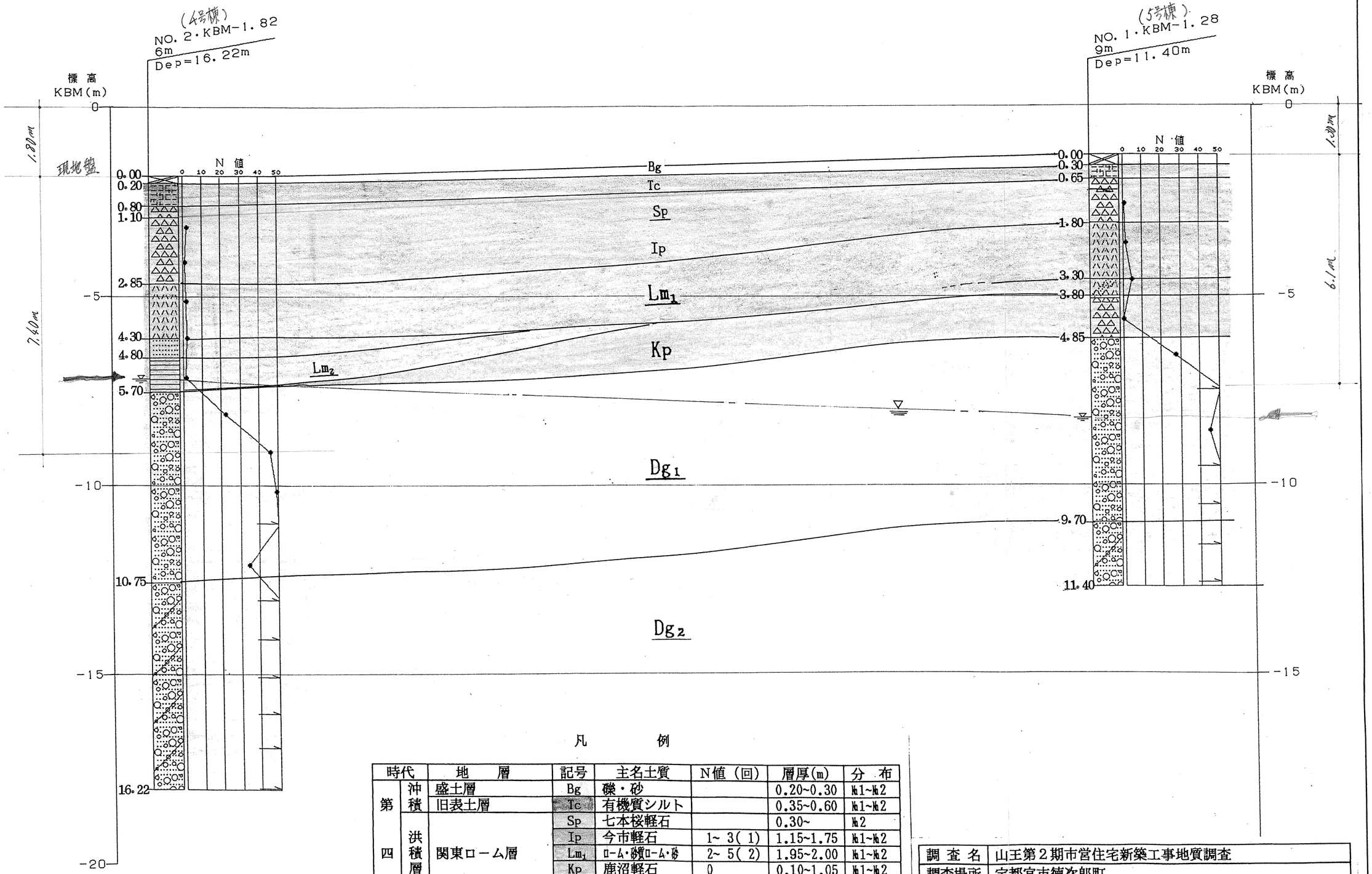
○ 調査地域



地質調査位置図

B.1
B.2
KBM
±0.00
宇基
NO.9
宇補
NO.9-1
C.5
C.6
C.7
C.8
C.9
C.11
C.12
宇補
NO.8-1
宇基
NO.8
宇基
NO.7
T.15
T.16
T.17
T.18
T.19
T.19-T
T.20
T.21
T.28
T.29
T.2
T.3
297
295
52
292
51
288
308
54
53
301
319
56
316 315
314 313
55
310
341
59
336
335
58
57
328 327
325 324 323
357
61
65
64
63
62
60
347
342
69
68
67
66
73
72
71
70
77
76
75
74
79
78
81
(4号棟)
No. 2
(5号棟)
No. 1
避難場
徳次郎町
5号児童公園
砂場
市道1319号線
市道1315号線
集会場
1号児童公園

地質推定断面図



凡　　例

時代		地　層	記号	主名土質	N値（回）	層厚(m)	分　布
第四紀	沖積	盛土層	Bg	礫・砂		0.20~0.30	№1~№2
		旧表土層	Tc	有機質シルト		0.35~0.60	№1~№2
	洪積層	関東ローム層	Sp	七本桜軽石		0.30~	№2
			Ip	今市軽石	1~ 3(1)	1.15~1.75	№1~№2
			Lm_1	ローム・砂質ローム・砂	2~ 5(2)	1.95~2.00	№1~№2
			Kp	鹿沼軽石	0	0.10~1.05	№1~№2
			Lm_2	ローム質粘土	2 (2)	0.90	№2
		砂礫層	Dg_1	砂礫	22~50以上	4.85~5.05	№1~№2
			Dg_2	砂礫	50以上	1.70~5.47	№1~№2

N値の（　）の値は，特異な値を除いた以外の平均的，代表的な値。

調査名	山王第２期市営住宅新築工事地質調査						
調査場所	宇都宮市徳次郎町						
図面名	地質推定断面図	調査年月	平成7年5月	縮尺	H=1:200 V=1:100	図番	1/1

土質柱状図

調査名	山王第2期市営住宅新築工事地質調査	調査年月日	平成 7年 4月26日 ～ 平成 7年 4月28日
調査位置	宇都宮市徳次郎町		
地点番号	NO.1	標高	KBM-1.289 m
機種	KR-50H	担当者名	
総掘進長	11.40 m	孔内水位	GL -6.95 m

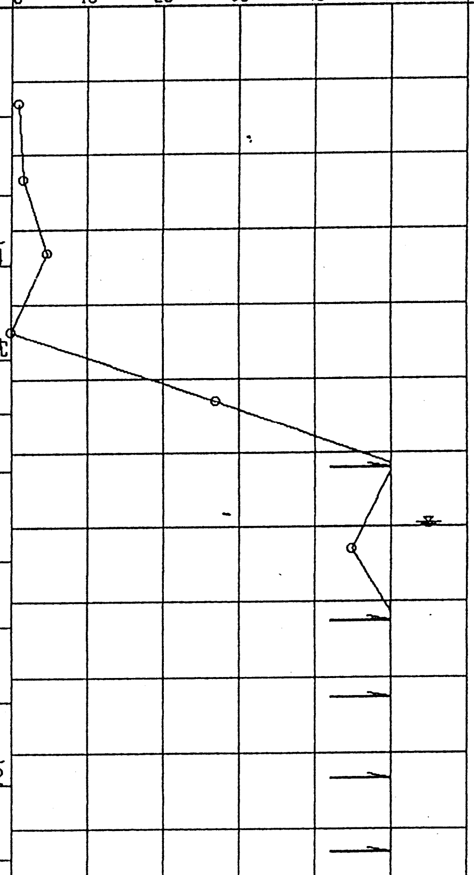
観察記録

標高 m	深度 m	層厚 m	土質名	色調	相対密度・コンシステンシー	記事
-1.59	0.30	0.30	盛土	黒灰色		れきと砂主体。
-1.94	0.65	0.35	有機質シルト	黒色		軽石の粒散在。植生根混る。
-3.09	1.80	1.15	軽石	黄褐～赤褐色		０.６５m付近七本桜軽石を若干挟む。下深今市軽石層。所々スコリアを多く含む。含水中。風化が強く粘土状化。
-4.59	3.30	1.50	ローム	黄褐色		含水中。粘性中。有機物混る。若干のスコリア混る。
-5.09	3.80	0.50	砂質ローム	黄褐色		全体的に砂状。含水中。部分的に軽石粒混る。スコリア混る
-6.14	4.85	1.05	軽石	乳黄色		全体的に粘土化で非常に緩い。含水多く水が逃げる。スコリア混る。
-10.99	9.70	4.85	砂礫	黄茶褐色～褐灰色		含水多い。礫はφ５～４０mmの亜円れき主体マトリックスは中～粗砂主体に少量の粘土混る。最大でφ８０～１００mm程度。５m～６m間全透水。７m～８m間透水性ある。７.３０～７.４０m付近密な砂挟む８m付近より褐灰色。８m付近より最大でφ１００mm内外混る。８.７０m～９m付近硬質れき密集
-12.69	11.40	1.70	粘土混り砂礫	黄褐色		含水中。礫はφ２～４０mmの亜円れき主体最大でφ１００mm内外。マトリックスは細～中砂、粘土。部分的に風化れきを含む。

標準貫入試験

深度 m	打撃回数/貫入量	10cm	20cm	30cm
1.15～1.47	1/32	1/32		
2.15～2.54	2/39	1/25	1/14	
3.15～3.47	5/32	1/11	1/7	3/14
4.00～4.73	0/73	モンケン自沈		
5.15～5.45	27/30	9	10	8
6.15～6.24	50/9	50/9		
7.15～7.45	45/30	13	16	16
8.15～8.32	50/17	34	16/7	
9.20～9.31	50/11	48	2/1	
10.20～10.42	50/22	27	20	3/2
11.20～11.40	50/20	14	36	

N値



原位置試験（深度 m / 試験名）、試料採取（深度 m / 試料番号 / 採取方法）、室内試験

掘進月日: 7/26, 7/27, 7/28

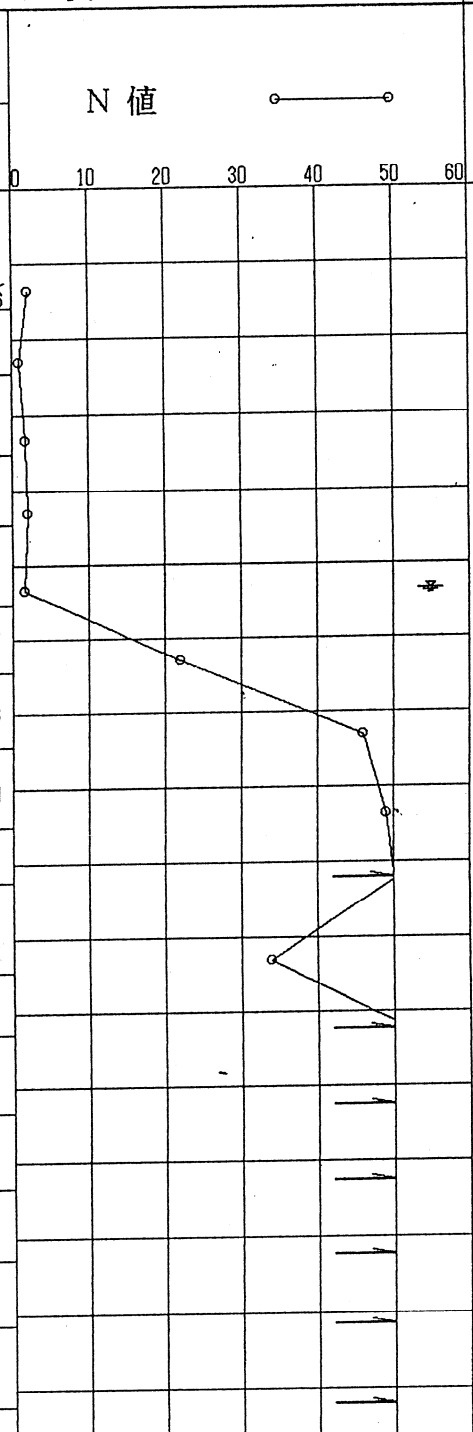
土質柱状図

調査名	山王第2期市営住宅新築工事地質調査	調査年月日	平成 7年 4月29日 ～ 平成 7年 5月 3日
調査位置	宇都宮市徳次郎町		
地点番号	NO.2	標高	KBM-1.826 m
総掘進長	16.22 m	孔内水位	GL -5.35 m
機種	KR-50H		
担当者名			

標尺 m	標高 m	深度 m	層厚 m	土質記号	土質名	色調	相対密度	コンシステンシー	記事
	-2.03	0.20	0.20		盛土	黒褐色			れきと砂主体。
	-2.63	0.80	0.60		有機質シルト	黒色			植生根混る。少量の有機物混る。
1	-2.93	1.10	0.30		軽石	黄褐色			七本桜軽石層で粘土化が進む。
2	-4.68	2.85	1.75		軽石	赤褐色			今市軽石層で含水多い。 全体的に粘土状化。
3	-6.13	4.30	1.45		ローム	黄茶褐色			含水中。スコリア、軽石少量混る。 4m付近砂質を呈す。
4	-6.63	4.80	0.50		細砂	黄灰色			含水中。粒径均一。 少量の軽石粒混る。
5	-7.53	5.70	0.90		ローム質粘土	黄茶褐色			含水中。粘性中～大。スコリア混る。 5.30m～5.40m間粘土化した軽石挟む。
6	-12.58	10.75	5.05		砂礫	黄茶褐色			含水多い。 礫はφ5～40mmの亜円れき主体。 最大でφ100mm内外。マトリックスは中～粗砂。 6m付近砂の混入多い。 6.70m付近まで水が逃げる。 7m～8m間チャート質れきが混る。 10m～11.75m間透水性ある。
11	-18.05	16.22	5.47		粘土混り砂礫	黄褐灰色			含水中。 礫はφ2～40mmの亜円れき主体。 最大でφ100mm内外。マトリックスは細～中砂、粘土。 部分的に風化れき混る。 11.70m～12.0m付近硬質れき点在。下深所々硬質れきを含む。

標準貫入試験

深度 m	打撃回数／貫入量	10cmごとの打撃回数 10cm	20cm	30cm
1.15	3/44	1/12	1/16	1/16
1.59 / 2.15	1/30	1/30		
2.45 / 3.15	2/35	1/21	1/14	
3.50 / 4.15	2/30	1/11	1/19	
4.45 / 5.15	2/39	1/20	1/19	
5.54 / 6.15	22/30	8	7	7
6.45 / 7.15	46/30	20	13	13
7.45 / 8.20	49/30	15	14	20
8.50 / 9.15	50/8	50/8		
9.23 / 10.15	34/30	11	12	11
10.45 / 11.15	50/13	16	34/3	
11.28 / 12.15	50/18	34	16/8	
12.33 / 13.15	50/19	30	20/9	
13.34 / 14.15	50/14	43	7/4	
14.29 / 15.10	50/4	50/4		
15.14 / 16.15	50/7	50/7		
16.22				



原位置試験 深度 m	試験名	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						5/1
						5/2
						5/3